



哲学することを学ぶ

井上円了によって“哲学”の学校として誕生した東洋大学は、複数の学部で“哲学”を学ぶ授業を展開しています。「エンジニアのための哲学」(理工学部)「経済哲学」(経済学部)「スポーツ哲学」(食環境科学部)など多彩な授業を通じて、哲学する姿勢を身に付けます。



副学長
FD推進センター長
グローバル・キャリア教育センター長
理工学部機械工学科
神田 雄一 教授

本学の神田雄一副学長(理工学部機械工学科教授)は、理工学部1年生から4年生を対象にした教養的科目群の授業「エンジニアのための哲学」(春学期)を受け持っています。理工学という枠を越えて、技術が自然や社会に及ぼす影響について深い理解などを養います。

神田副学長は授業の目的を次のように語ります。

「情報倫理、生命倫理、技術倫理、工学倫理など、近年、エンジニアの社会的責任や倫理観を見直す機運が高まっています。これからのものづくりを担う人たちは、これまで以上に、エンジニアリングが自然や社会に及ぼ

す影響を深く考える必要が出てくるでしょう。私たちはこの授業を通じて、多様なものの見方と“考える姿勢”を学生に身に付けてほしいと考えています」

「エンジニアのための哲学」は理工学部の教員のほか、竹村牧男学長、他学部教員、企業のエンジニア、卒業生らが教壇に立つオムニバス形式で進められます。授業内容は「技術者倫理」「情報倫理」「企業の社会的責任(CSR)」「特許について」「環境問題」「21世紀のものづくり」など、毎回異なるテーマで展開しています。学生たちは授業を聞きながら、3回に1回くらいのペースで演習を行ったり、ワー

クシートに自分の考えをまとめたりします。

テキストには本学の教員が中心となり執筆した『エンジニアのための哲学・倫理』を使用しています。

副読本には、本学創立125周年を記念して刊行された『哲学をしよう!—考えるヒント30』を採用。最終回の授業では、自分のキャリア、夢、未来予想図をイメージするための訓練として、マインドマップを作成します。

正解のない課題と向き合うために

「哲学という学生は難しそうだと思いますが、『エンジニアのための哲学』では将来、直面するような問題も取り上げます。例えば、エンジニアには正解のない課題に向き合わざるを得ない場面に多々遭遇します。この授業には、そうした場面でも対応できるように、考える訓練と多面的なものの見方を養うことを目的としているのです」

授業では、チャップリンの映画『モダン・タイムス』も取り上げます。

神田副学長は、大学生のときに『モダン・タイムス』を観て、大量生産が人々の暮らしを豊かにする一方で、労働者たちの働きがいなくしていく過程が強く印象に残っているといます。機械を導入することで人の心が変わってしまう現象についても授業の中で毎年学生たちと話し合います。

「全15回の授業を通じて、ものづくりのあり方、ものづくりの仕組みに人間がどう関わっていくのかを考えてほしいのです」

経済哲学が生まれた背景を考える

経済学部で「経済哲学B」(春学期は「経済哲学A」)を開講)の教鞭をとるのは、太子堂正称准教授です。

毎回1人の著名な経済学者を取り上げ、彼らの経済哲学を紹介していきます。

「経済哲学B」(秋学期)の授業では、

アダム・スミスやケインズ、ハイエクといった著名な経済学者たちの学説だけでなく、彼がどのような社会を理想と考えていたのか、どんな人物に影響を受けたのか、どんな活動に興味があったのかなど、その人の生き方にスポットを当てて講義を進めていきます。

「歴史や思想を知ることで、学生たちの現代経済への視点を広げ、『われわれはどういう社会を理想と考えるのか』を学生1人ひとりが考えるきっかけになることを期待しています」と太子堂准教授は強調しています。



経済学部経済学科
太子堂 正称 准教授

「哲学することを学ぶ」ためのテキスト



『哲学をしよう!—考えるヒント30』

本学が、実践的な哲学教育を行うための教材として発刊した書籍。現代社会が抱える諸課題の中から、特に哲学的思考を実践するために重要な30項目のテーマをピックアップしている。竹村牧男学長をはじめ、全学部の教員が分担執筆し、「哲学と教育」「地域と社会」「環境と生命」など現代社会のあり方を示唆する内容となっている。「哲学する」姿勢を磨くため、2013年度より展開している授業にて活用している。



『エンジニアのための哲学・倫理』

理工学部や法学部などの専任教員が授業のために執筆した教材。章ごとに授業を振り返るワークシートを用意するなど工夫を凝らしてある。エンジニアが求められる資質を学ぶため、扱うテーマは、「技術と哲学」「ものの見方と考え方」をはじめ、「技術と倫理」「技術からの視点」「21世紀における持続的発展に向けて」など多岐にわたる。

「深く掘り下げて考える」 それが東洋大学の哲学教育です

— 東洋大学学長 竹村牧男

東洋大学は創立者 井上円了先生の「諸学の基礎は哲学にあり」を建学の精神としています。昨年に迎えた創立125周年を機に、改めてこの精神に基づいて哲学教育の充実を図ろうと、基盤教育だけでなく、複数の学部においては専門分野に関わる哲学の授業も開講されています。

円了先生のお言葉は、哲学こそがあらゆる学問の根源だという意味ですが、カントやヘーゲルといった哲学者の思想を学ぶことだけが哲学教育ではありません。

グローバル化が進んだ現代社会は、絶対的なものが失われ、価値観が多様化錯綜しています。こうした状況の中で、「自分はどのように生きていけばいいのか」と悩んでいる若者たちも多

いことでしょう。

そんな現代社会だからこそ、さまざまな価値観を学び、常識や先入観、偏見などにとらわれず、自分の生き方を深く掘り下げて考えてほしい。この深く考えることこそが、いわば哲学なのです。「哲学すること」を学ぶ。それが、東洋大学の哲学教育です。

本学はグローバル人材の育成やキャリア教育を重視していますが、これらの学修にも根本に哲学がなければなりません。古今東西の思想を学び、自分自身で深く考えていくことで、自立した社会人、グローバルに活躍する人材に育ってほしい。そうした考える機会を設けるのが私たち教育者の役目だと考えています。今後さまざまな授業で深く考える姿勢を養っていきます。



文学部東洋思想文化学科 教授
竹村 牧男 学長

本学の特色のひとつ、哲学思想や文学を含む人文社会科学と、物理学や生物学を含む自然科学といった学問分野の違いや、従来の科目区分にとられない「全学総合科目」を設置しています。インターネットを利用した双方遠隔講義システムにより、白山、朝霞、川越、板倉の4キャンパスで同じ授業を同時に受講し、文理を超えた「ものの見方・考え方」を身に付けます。

学部を横断する 「全学総合科目」

〈2013年度開講科目※一部〉

全学総合ⅡB(秋学期) **発信** 白山キャンパス

フェアトレードを通して学ぶ 世界の文化と社会

国際協力の新しい形として日本でも定着しつつあるフェアトレード。さまざまな事例を通して、基本的な考え方を学び、理解を深めていく。

全学総合ⅡA(春学期) **発信** 朝霞キャンパス

「妖怪学リニューアル」 ヴァージョンアップ!

不可思議なものにひかれる人間の心性に目を向け、科学的な検証と明晰な論理によってその本質を見極め、思い込みや不合理な権威を打破していくための批判精神を養う。

全学総合ⅠA(春学期) **発信** 白山キャンパス

留学のすすめ — 留学の目的や意義について学ぶ入門講座 —

留学の社会的意義や個人の成長に及ぼす役割について、多くの事例に触れることで、キャリア形成のための留学について認識を深める。

全学総合ⅠA(春学期) **発信** 白山キャンパス

哲学への誘い

「世界と自己」「心とからだ」「正義と自由」というテーマについて、東西の異なる知見を手がかりに、1人ひとりが思考を進め、自ら哲学的に思考することを体験し、理解する。

全学総合ⅠB(秋学期) **発信** 白山キャンパス

エコ・フィロソフィ入門

環境問題の現状と解決するための試みを、東洋・西洋の哲学的思想を手がかりに解説する。環境関連の諸問題を総合的に理解し、自分なりに判断する力を身に付ける。



2013年10月31日の授業では、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の石崎恵子氏を招いての講演を開催しました

東洋大学 井上円了哲学塾を開塾

— 学生と社会人がともに実践哲学を追求する



塾頭
塩川 正十郎 総長

自らは質素儉約に徹し、ひたすら情熱を傾けて民衆の教育に挺身した創立者 井上円了の志を受け、混迷を深める現代に対して、哲学に基づく叡智をもって自らの価値観を形成し、理想社会の建設に果敢な行動力を発揮する次世代リーダーの育成を目指して、2013年秋「東洋大学井上円了哲学塾」を開塾しました。

WEB <http://www.toyo.ac.jp/site/itj/>

創立者 井上円了は、明治初期に西洋哲学・東洋哲学を広く学ぶとともに、民衆の教育事業を志し、哲学教育による人づくりから日本社会の改良を目指しました。本塾は、その志を受け、時代を切り拓く情熱を持った人材の育成を目的としています。

哲学することを基盤とする少人数の塾で、現在は42人の塾生が参加しています。

先人たちの生き方とその哲学を学ぶと

もに、塾生同士相互に深く議論して、自己を磨き成長できる場とすることで、現代の地球社会における自己の生き方を確立し、未来の地球社会のあり方を洞察して状況の変革のために行動する人材を育てます。また、塾生が自分自身の生き方の基軸を形成するとともに、社会のあるべきあり方も探求します。

哲学基礎講座

「東洋哲学と現代社会」をテーマに、基本的な哲学的思考力を身に付けます。

哲学実践講座

●リーダー哲学講義

各界で活躍するリーダーを講師陣に迎え、これらの講義から塾生たちは「哲学すること」の重要性や現代社会の諸問題へ意識を高め「自身の哲学の確立」のためのヒントを学びます。

ゲスト講師による講演

河合正弘 氏(アジア開発銀行研究所所長)
ハロルド・クロトー 氏(ノーベル化学賞受賞者・本学学術顧問)
姜 尚中 氏(聖学院大学全学教授)
堺屋太一 氏(作家)

安藤忠雄 氏(建築家)
中村桂子 氏(JT生命誌研究館館長)
細川護熙 氏(元内閣総理大臣)
ドナルド・キーン 氏(文学者・本学学術顧問)
梅原猛 氏(哲学者)

●リーダーシップ・セミナー

「リーダー哲学講義」の考察とともに、グループごとに設定した課題について徹底的にディスカッションし、チームワークとリーダーシップのあるべきかたちを探求します。

ファイナル・レポート

グループごとに共同で最終報告書を作成します。情報や意見の交換、効果的な連携作業などを学び、同じゴールを目指す連帯感を体験します。

哲学カフェ — 気軽に哲学に触れる場を

大学から外に出て、広く社会へ「哲学する心」を伝えることを目指し、「哲学カフェ」をオープンしました。コーヒーや紅茶を飲みながら、ゆったりと何でも話し合える空間で、今年度は井上円了哲学塾の哲学基礎講座の本学講師陣も参加し「哲学すること—なぜだろう」について語り合います。



〔場所〕
サロンド富山房Folio(フォリオ)
☎03-3291-5153 / 8215

開催スケジュールや詳細は下記URLでご確認ください

WEB <http://www.toyo.ac.jp/site/lit/23757.html>

Interview

インタビュー

卒業生22人に聞いた 大学生活4年間の価値



左から鈴木亮平さんと能崎真琴さん
(ともに社会学部メディアコミュニケーション学科3年)

『東洋大学出身の挑戦者たち』を社会学部メディアコミュニケーション学科3年の鈴木亮平さん、能崎真琴さん、國嶋恭史さんの3人が出版しました。

この本に登場するのは、アナウンサー、国会議員、作家、起業家など多方面で活躍している、東洋大学の先輩たち22人です。

発案者の鈴木さんは、「ある卒業生の方と話したことがきっかけで、今しかできないことをしようと、この本を企画しました。僕は高校球児でしたので、目標に向かって取り組む生活しか知りませんでした。しかし、大学に入学しても目標がなく、やりたいことを見つけれない中で、自分の道を切り拓いてきた先輩方の話を聞こうと考えたのです」と語ります。

3人は『卒業生の活躍』にこだわったそうです。この本を学生たちのカンフル剤にしようと考えたからです。「私たちと同じ環境にいた先輩たちだからこそ伝えられることがあり、説得力をもつと考えました」と鈴木さんは強調します。

能崎さんは「私も学生生活に漂う停滞感を払拭したいと思っていました」とプロジェクトに加わった動機を語ります。

「先輩方の話は、刺激的なものばかりでした。議論をする一方で、ピンチには助けるといった話が強く印象に残っています」

自分の道を自ら切り拓いてきた人たちが、大学時代をどのように過ごしてきたのか、大学生活4年間の価値はどんなところにあるのかを語っています。22人が歩んできた人生の哲学を紹介した本といえるかもしれません。



『東洋大学出身の挑戦者たち』(本体600円+税)。2013年8月20日発売。白山、川越、朝霞キャンパスの東洋大学生生活協同組合にて取り扱っている